

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 南島文化専攻 出題意図

〔専門科目〕

【社会文化領域専門科目】

(1) の設問について…専門領域におけるキーワードの理解について問うための問題であり、以下のアドミッションポリシーに関わるキーワードについて出題している。

<キーワード群 A> (①日米安全保障条約／日米地位協定と沖縄、②沖縄への軍事基地集中、③沖縄経済の基地依存度)

アドミッションポリシー「南島社会の抱える現代的な問題」とのかかわりにおいて、沖縄社会と安全保障問題および「基地問題」との関連性を考えるためのキーワードを意図したものである。

<キーワード群 B> (①越境的ネットワーク、②アイデンティティ・ポリティクス、③多文化主義)

アドミッションポリシー「南島地域の社会関係の特質、南島社会における文化問題」とのかかわりにおいて、沖縄県内における「多文化」を、移民の歴史や現在と結びつけて考えるためのキーワードを意図したものである。

(2) の設問について…アドミッションポリシー「南島社会の抱える現代的な問題」とのかかわりにおいて、「沖縄の基地問題」と差別構造との関係を、社会行為論の視点で捉え、論理的に説明することを意図したものである。

【先史・歴史文化領域専門科目】

【問1】史料読解

史料読解を通して、文献史料を一次資料として扱える能力を測るとともに、沖縄の近代史に関する知識の修得状況を確認するものです。漢字カタカナ交じり文を読めるか、史料の内容を適切に理解した上で要約できるかなど、史料を「歴史情報」として読み取る能力の確認として課しています。

【問2】用語説明 (200字)

用語説明を通して、各用語の具体的特徴(物質文化的・制度的・地域的)を説明できるか、それを歴史的文脈の中に位置づける力があるか。定義だけではなく、なぜ重要かを200字で表現できるか、という能力を測り、知識の定着度(時期・空間・内容)、簡潔な表現力(200字制限=構成力)、用語を意味づける力を確認しています。

【問3】論述 (1000字)

琉球・沖縄史の個別テーマを通して、遺跡(=現場)や学史的枠組みを再構成できるか、発見された実物(遺物・遺構)・時期(年代観)・調査成果などの3点を意識して論じられるか、その論理構成力(1000字で起承転結を作れるか)や発見によってもたらされたと学問的意義の正確さ、比較・連関の視野を測る判断材料としています。

【外国語科目：英語】

前期

設問1：問1は、北欧民話研究について述べたものである。解答者には、英語の語彙力だけでなく、文章全体の構成や段落のつながりを理解し、複雑な情報から真実を見抜く能力が求められる。

設問2：問2は、都市緑化について述べたものである。この問題を通して、英語を正確に読み取れているか、読み取った内容を英語で的確に表現できているか、といった点を評価している。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域文化研究科 英米言語文化専攻 出題意図

専門科目【言語教育学領域・英語教育学系列】 出題意図

英米言語文化専攻は、実践的な英語運用力と確かな日本語力、様々な文化的背景の理解に基づく多文化共生社会を実現していく能力、専門分野における知識や経験に加えて、他分野の知識や経験を取り入れることのできる応用力をバランスよく備えた人材の育成を目指しています。したがって、この専攻の入学希望者には言語文化・言語教育に関して強い学習意欲を持ち、グローバル社会に対応できる専門性の獲得及び教育機関における実践的・学術的指導者を目指す人物を求めています。

設問 1：問 1 は英語教育に関する知識を問う問題です。コミュニケーション能力の定義、第二言語習得理論、指導法及び評価等、本分野に関する総合的な知識が求められます。

設問 2：問 2 は、語学学習に関する意見についてどう考えるか、事実や研究結果、理論などの根拠に基づき、客観的に論じる能力を問い、同時に論理的思考力と文章表現能力を問う問題です。

設問 3：問 3 は、2つのトピックのうち一つを選択し、論述する形式の問題です。第一のトピックは、オンラインツールを活用した学習環境と教育の関係について、多面的な視点から考察する力を問う問題です。第二のトピックは、英語教育において多言語話者を含む学習者の多様性にどのように配慮すべきかについて、教育的観点から適切に論じる力を評価する問題です。

外国語（英語）科目【言語教育学領域・英語教育学系列】 出題意図

試験の実施なし。

令和8(2026)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験 地域文化研究科 人間福祉専攻臨床心理学領域 出題意図

アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本領域の教育目標を理解し、人間のこころに関心を持ち、幅広い視野と柔軟な思考を備え、高度な専門職をめざす、以下のような人物をもとめます。

1. 公認心理師・臨床心理士をめざす人物。
2. 心理学の基礎的知識と対人関係能力を、一定以上身につけている人物。
3. 心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力が身につけている人物。
4. 心理学的視座から現代社会における諸問題について関心を持ち、人とのつながりの中で実践的に問題を解決していくことができる人物。

〔専門科目〕

大問Ⅰ・Ⅲ・Ⅳは、アドミッション・ポリシーのうち、ポリシー2の「心理学の基礎的知識を有していること」および、ポリシー4の「心理学的視座から現代社会の諸問題に関心を持ち、理解しようとする姿勢を有していること」を評価するための問題です。特に大問Ⅰでは、心理学に関する基礎知識を単に暗記しているかどうかではなく、出題された心理学の概念を人間の生活や対人関係、臨床的な問題とどのように関連づけて理解しているかを問います。自分の言葉で具体例を挙げながら説明できているかどうか重要です。大問Ⅲ・Ⅳでは、心理学・臨床心理学の知識をより具体的かつ実践的な場面に結びつけて説明できるかを見ています。学んだ理論や概念を、臨床現場での課題や事例と関連づけて考えられているかが評価のポイントです。

また、大問Ⅱは、アドミッション・ポリシー3の「心理学の実証的研究手法を通して、心理学的現象を論理的に考え説明できる力を身につけていること」を判断するための問題です。心理学研究や統計法に関する知識を単に覚えているだけでなく、**研究計画や実際のデータ解釈の文脈で適切に活用できるかどうか**が求められます。

〔外国語科目〕

アドミッション・ポリシー2・3・4を判断するための問題です。辞書を用いながらも英語の心理学論文を読み理解する力があるかどうか、また心理学の基礎的な英語のテキストを読み理解する力があるかどうかを評価することを意図しています。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
地域産業研究科 地域産業専攻 出題意図

〔専門科目〕

経済学または経営学の基礎力・応用力の他に、地域経済、環境、情報、産業、企業などの現状と課題に関する理解や関心度と、それらを論理的に分析する能力を確認します。

〔外国語科目〕

外国語で書かれた文章の読解力を確認します。また、日頃から社会の動向に関心があるのか、経済学または経営学の基礎理論、ならびにその応用分野と関連知識に関する能力を確認します。

令和 8(2026)年度 沖縄国際大学大学院入学者選抜試験
法学研究科 法律学専攻 出題意図

〔専門科目：5科目分〕

憲法： 憲法：日本国憲法のもとで保障される幸福追求権（そのうち、個人に関する情報をみだりに第三者に開示又は公表されない自由、自己の意思に反して身体への侵襲を受けない自由）、集会・結社の自由、婚姻の自由などについて、通説的な定義及び判例の展開などを踏まえ、基礎を適切に把握できているかの能力を測る。

税法： 前期は応能負担原則と税法上の具体的な制度との関係に関する理解を問う問題を出題し、後期は①租税法律主義に関する理解を問う問題、②給与所得控除制度に関する理解を問う問題（二題）のどちらか一問を選択する形式で出題している。

商法： 取締役の報酬や責任、株主代表訴訟、自己株式などを中心に、指定教科書の内容を踏まえつつ、会社法の条文や趣旨などに関連する理解度を問う。

民法： 契約自由の制限によって当事者の一方を保護する法制度とその限界についての理解を問うている。

刑法： 基本的に博士課程に進学する学生が見込めないため、学部の初年次に履修すべき専門的知識内容の理解の程度を見ている。

〔外国語科目〕

・大学院における研究に必要な基礎的な英語読解力があるかを見ると同時に、法に関する用語の理解、および、国内外における社会の動向への関心がどの程度あるかが問われる出題となっている。